

■□■受験対策ミニ講座 20号 2019■□■

節分の日に国家試験を受けたみなさま、お疲れ様でした。心から労をねぎらいたと思います。試験翌日は立春、新しい季節が始まっています。試験の重圧から解放されて“春”を楽しむ準備をしている方も、来年に向けて準備を始めている方も、日々の暮らしのペースを取り戻して、次のステップへと向かって行きましょう。

■Plus Column

【今日はテキストを置いて】

早いもので、受験対策ミニ講座も 20号となりました。1号では、TV ドラマ『健康で文化的な最低限度の生活』をご紹介しました。戦後、国民の豊かな暮らしと娯楽の象徴として始まったテレビに、社会福祉の象徴である生活保護制度がドラマ化されて登場する時代が巡ってきたのだと、つくづく思いました。

番組を見逃した方は、原作の漫画作品（柏木ハルコ 小学館）を手にするのもいいかもしれません。コミックには他にも福祉をテーマにした優れた作品がたくさんあります。例えば、高齢者介護がテーマの『ヘルプマン』（くさか樹里 講談社）は、ある介護福祉士養成校で副読本として使われているそうです。自閉症の少年とその家族を描いた『光とともに』（戸部けいこ 秋田書店）、ろうと知的障害の重複障害をテーマとした『どんぐりの家』（山本おさむ 小学館）などは、もはや古典ともいえる名作です。

小説にはもちろん、人間と社会についての色々なことが詰まっています。最近の芥川賞、直木賞受賞作品はどれも、福祉的な視点で読むことができます。例えば、芥川賞受賞の『コンビニ人間』（村田沙耶香 文藝春秋）は、ある種の生きづらさを抱えながらコンビニで働く女性が主人公です。

映画もしかり。伝説のロックバンド、クイーンのボーカリスト、フレディの半生を描いた『ボヘミアン・ラプソディ』は、性的マイノリティが社会の中でどのように扱われ、当事者はどんな気持ちで暮らしていたのか、という視点で観てください。音楽を楽しみながら、時代と社会への理解が深まるきっかけになることと思います。

試験が終わってホッとしている方も、次回のチャレンジを誓っている方も、少し気分を変えて、色々な角度から、人間と社会を見直す時間を持ってみてはいかがでしょうか。様々な文化に触れて、物事を深く考える、心豊かなソーシャルワーカーを目指していきましょう。

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus